

講義名	対)日本語総合A (K56) 【留学生科目】		
担当教員	石橋 明子		
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 3時限	授業形態	演習
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

**主題と概要**  
 大学生を送るために必要な基礎的な日本語能力を身につける。この授業では、日本語の文法項目について、基本的なものから日本語能力試験上級レベルのものに至るまで、幅広く意味や使い方を学ぶ。また、学習した文法が実際に使えるよう運用力も身につける。

**到達目標**  
 ・授業で扱った文法項目の理解にとどまらず、運用能力を身につけ、日常生活でのコミュニケーションや大学での学習に対応できるようにする。  
 ・様々な場面において、日本語で自分の意見を伝えたり、課題を解決したりすることができるようになる。

**提出課題**  
 授業内で学習した文法項目について、短作文等の課題を出す。課題は授業の内容によって異なる。

**課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック**  
 宿題や授業内で行った小テストは、添削して返却する。また、誤りの多かったものに関しては、授業内で解説を行う。

**評価の基準**  
 課題提出（20%）、授業への参加度（20%）、復習確認問題（30%）、理解度確認問題（30%）などをもとに、総合的に判断する。

**履修にあたっての注意・助言他**  
 毎回の授業で出席をとる。欠席が1/3を超える学生は単位を与えることができないので、注意すること。  
 授業中は、私語を慎み、積極的な参加を望む。

教科書	.使用しない。				

**プリント資料及び参考文献**  
 プリント資料等は必要に応じて配布する。

**授業計画**

第1回 授業の説明（授業の進め方、スケジュール、評価の方法、注意事項）  
 第2回 辞書の活用、語彙を学ぶ  
 第3回 語彙の感覚、漢字を学ぶ  
 第4回 語彙の感覚、強い気持ちを表す言い方を学ぶ  
 第5回 語彙の判断を表す言い方を学ぶ  
 第6回 肯定の言い方、否定の言い方を学ぶ  
 第7回 原因、理由を表す言い方を学ぶ  
 第8回 学習前半の確認、復習確認問題  
 第9回 否定の言い方を学ぶ  
 第10回 相関関係を表す言い方を学ぶ  
 第11回 相関の取り立てを表す言い方を学ぶ  
 第12回 比較を表す言い方を学ぶ  
 第13回 複文で用いられる表現を学ぶ  
 第14回 接続の表現を学ぶ  
 第15回 期末の理解度確認問題

**授業形態（アクティブ・ラーニング）**

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

**準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間**  
 復習：授業内で学習した項目について、理解の確認をするとともに、短作文等の課題を行う。 約2時間  
 予習：次週の文法項目について予習を行う。 約2時間

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**  
 留学生を対象とした科目群で、日本語の文法について実用的かつ基礎的な語学力を修得するとともに、課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・整理し、解決できる人材を育成する科目である。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

**実務経験の有無及び活用**

**備考**